

鴨立庵だより

鴨立庵とは、江戸時代から続く俳諧道場でござる。
初代庵主大淀三千風が開き、現在では京都の落柿
舎、滋賀の無名庵と並び日本三大俳諧道場と呼ばれ
てゐるじゃござるよ。



鴨立庵大使「えんいくん」

今月の俳句 1

逆光を着ぶくれて来る 男かな

神奈川県中郡大磯町 前田 恵美

季題は「着ぶくれ」。冬もいよいよ寒くなると、人はなりふり構わず「着膨れ」る。冬の好天、まぶしい「逆光」の中を、こちらに向かって歩いてくる「着膨れの男」。誰だかは判らない。

(鴨立庵庵主 本井 英)

今月の俳句 2

図らずも桜を追うて着任す

栃木県宇都宮市 平野 暢行

日本人の誰もが愛して止まぬ「桜」は「桜前線」の名のように、列島を順次北上しながら咲いて行く。そんな時節、転勤の辞令を受けた作者は、桜が咲き始めた地へと赴いた。

(鴨立庵庵主 本井 英)

今月の短歌

小菊など庭いっばいに咲かせつつ
親は土地売り施設へという

埼玉県熊谷市 竹井 佐知子

両親はそろそろ老後のことを気にかけ始めたようです。住み慣れた土地や家を手放し高齢者施設入居が話題になっています。今日の日本では、どの家族でも日常的な話題となっているようです。背景には、戦後の家制度廃止によって進んできた家族の核家族化があるのでしょうか。この歌の「親」は老化への気掛かりや子どもへの配慮があると同時に、土地への愛惜があります。土地は、生きてきた生活の記憶そのものです。小菊の花が一面に咲いている秋のひんやり澄んだ庭の風情が、家族それぞれの心中を思わせませう。

(西行祭選者 今井 恵子)

「めいど いん おおいそ」 登録産品紹介

問大磯らしい潤いづくり協議会 (大磯町商工会)
☎ (61) 0871

ご当地登録産品
OISO
Made in OISO

【網元 松道丸】

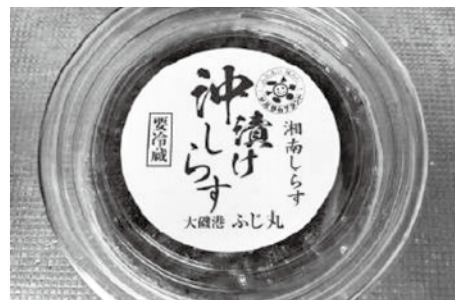
問合せ先: ☎ (61) 2626



■ 釜揚げしらす

【湘南しらす ふじ丸】

問合せ先: ☎ 090 (3045) 6671



■ 湘南しらす

